



# 小学部 算数科 一題材の実践事例

題材名：『すごろくゲーム』で、数字カードに書いてある数のブロックや具体物をそろえて、すごろくのマスを進もう

授業者：大谷 保裕

<b>学習指導要領の段階と内容</b> 小学部 1段階 数と計算 <b>知・技</b> ：ア(ア)③までの範囲で具体物を取る。こと。 <b>思・判・表</b> ：ア(イ)⑦の数詞ともとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすこと。 <b>学 び</b> ：数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	<b>題材目標</b>	<b>知・技</b> 『すごろくゲーム』で、各マスの問題を解く時、数字が示す数量がわかり、数字カードの数字(1・2)と同じ数量のブロックを数え取る
		<b>思・判・表</b> 数字カードの数字(1・2)と同じ数量の具体物をそろえる時、数字が示す数量について考え、そろえる具体物の数量を判断し、数字カードの数字と同じ数量の具体物を数え取る
		<b>学 び</b> 数字と同じ数量のブロックや具体物を数え取る問題に繰り返し正しく取り組む

**教材と仕組み**

教材名：『すごろくゲーム』

- すごろくマットをマスずつ進み、各マスの問題に取り組む。すべての問題に取り組む、ゴールまでたどり着いたら、自分で選んだ活動ができる仕組み
- 問題数を量で捉え、見通しをもって取り組むことができるように、それぞれの児童に応じた問題数のコースを設定
- 「2. 展開」「3. 発展」場面で、1回ずつすごろくゲームを行い、それぞれの開始時は『すごろくゲーム』開始の音楽を流す

<b>観点別評価</b>	<b>知・技</b> 数字カード見て、その数のブロックを数え取ることができた。
	<b>思・判・表</b> 数字カード見て、その数のりんごやいちごなどの具体物を数え取ることができた。
	<b>学 び</b> 数字と同じ数量のブロックや具体物を数え取る問題に繰り返し正しく取り組む姿が見られた。

**関連する授業づくりの手順**

**ポイント** 数字が示す数量を理解できるようになるための工夫

知識及び技能の指導の計画を立てる

思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

1と2の数量の違いに目を向ける (言葉かけの支援)

1と2の数量の違いがわかる

数字が示す数量がわかり (1と2)

できる→わかる

わかる→できる

**教材の仕組みを決定する**

**ポイント** “できて→わかる”ための働きかけの段階化の工夫

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

R研で毎時間の授業の評価・改善

**考察**

指さし+数詞

意味づけ

数詞

意味づけ

様子を見る

できた時

すぐに認め

できたことに対する意味づけ

働きかけの段階化

○ドットや教師の働きかけを手がかりにして、ブロックをそろえたことに対して意味づけを繰り返したことで、提示した数字の数のブロックをそろえることができるようになったと考える。(1・2)

○次題材で、3と4の数字を扱う際は、本題材でできるようになった1や2の数字も取り入れることで、数量の違いに目を向けながら学習が進むようにしていきたい。

○自分から問題を取り、問題を解く場所まで持ってくる姿が多く見られるようになった。

→児童が主体的に取り組むことができるように、わかりやすい教材の仕組みと場面設定を取り入れることや「できる」ことの重要性を改めて感じたため、継続して実践していきたい。